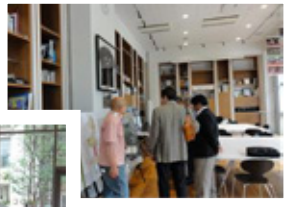
TX・竹ノ塚周辺地区部会

「トライアングルネットワークの形成と
大学・地域とのまちづくり連携」

（推進委員）
山田 昌三　髙橋 和彦
石鍋 秀夫　榎本 富美夫
西村 真海

（カウンセラー）
石塚 修一
鮎川 博司
市毛 英明
佐久間 久恵
松沼 勝



■地区の状況

● TX・竹ノ塚周辺地区の位置

足立の北東部に位置し、地区西側を東武スカイツリーライン、北側は毛長川、東側を綾瀬川を境とし、南側を環状７号線で囲まれた大きなエリアです。また、草加市や八潮市とも接しています。

さらに、地区を南北に国道４号、旧日光街道、つくばエクスプレス等の重要な交通動線が縦断しています。

●まちの現状

地区の強みや良い所は、歴史的な資源やまちづくりの資源が豊富にあることです。

歴史的な資源
鷲神や島根のお酉さま、保木間寺社群、旧日光街道など

自然的な資源
毛長川、綾瀬川、毛長公園や遊歩道、桑袋のビオトープ公園など

みどりや公園施設
桜花亭、元渕江公園や総合スポーツセンター

まちづくりの資源
未来大学グラウンドや大規模団地である公共住宅群も多い

■まちの課題

●地区の弱点

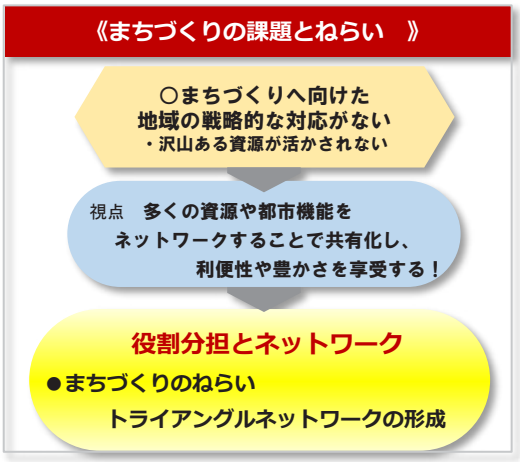
・東西の交通網が脆弱で、利便性が低い
（南北の交通網は、比較的に充実していますが、これらを結ぶ東西の交通網が非常に弱い状況です。）
・周辺には商業施設やにぎわいの核がありません
（特に、六町駅周辺では、新しいまちができましたが十分ではありません。）

●地区の脅威

・谷塚駅や草加駅では、賑わいもあり買い物の利便性も高く、谷塚駅は文教大学のアクセス利便性が高い
⇒地区からのにぎわいの流出や分散の可能性が高い
・比較的大きな住宅団地が多く立地
⇒住民の高齢化によるまちの活力低下が懸念される

■まちづくりの課題

地区内には、多くのまちづくり資源があります。
しかし、東西を結ぶ交通網が形成されていないことから、つながりが乏しく、せっかくの良い資源や施設の利用が阻害されている状況にあります。
そこで、多くの資源を活かし、これらを地区全体で利用するために、拠点となる地区の役割分担とネットワークをまちづくりのテーマとし、まちづくりへ向けた戦略的な対応を構想します。

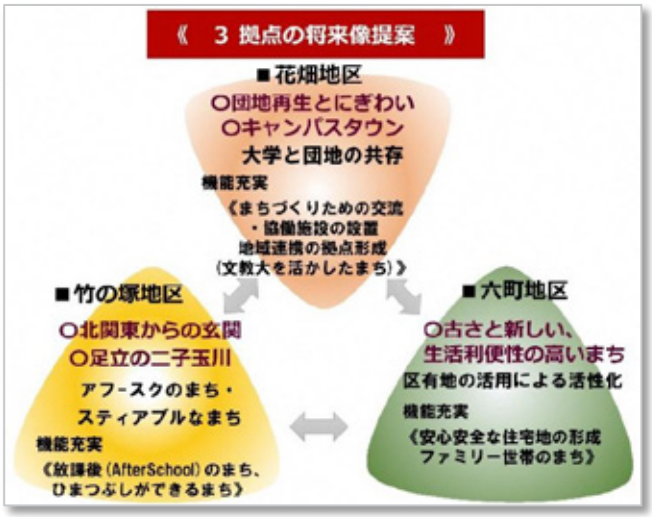


■竹の塚地区のまちづくり構想の提案

まちの現状や課題などを踏まえて、ネットワークづくりによるまちづくりに必要なキーワードや具体的なまちづくりの対応を提案します。
『**トライアングルネットワークの形成と大学と地域のまちづくり連携**』とします。

●トライアングル３拠点の将来像提案
（竹の塚地区、花畑地区、六町地区）
●大学と地域のまちづくりの連携
●高架下の利用によるにぎわいづくりと
サテライトキャンパスの計画
●トライアングルと
その他のネットワーク計画

●トライアングル3拠点のまちづくりのイメージ



竹の塚地区では、鉄道高架化と大学の進出も活かし、**「北関東からの玄関口として、文化の香り高い、学生のまち」**を提案します。

花畑地区では、大学の進出を活かし地域との協働により**「団地再生によるにぎわいとキャンパスタウンの実現」**を提案します。

六町地区では、古くからのコミュニティが残ったまま、まちが新しくなりました。

テーマは、**「安全で利便性が高い、古新(ふるあたら)しいまちの実現」**を目指します。

①竹ノ塚駅周辺地区のアフ-スク、スティアブルなまちの機能の充実

竹ノ塚駅周辺の東西一体となったまちづくりの推進や活性化に向けて、学生がまちに滞在できる、アフタースクールのまちを目指します。

竹ノ塚駅周辺では、アフタースクールのまちとして、滞在できる暇つぶしができるまちをつくり、学生とともにまちを活性化していくことを目指します。

・立体化によるまちづくりの動きを活かし再開発による店舗や施設の確保
・バイトや遊びなどで学生が時間をつぶせるまちをつくる

・大学のサテライト施設の開設による地域の活性化を図る
(※アフ・スクとはアフタースクール、ステアブルとは暇つぶしができるという造語です)

②花畑地区の大学と地域が共存するための連携拠点の形成

地域と大学や学生が直接関わりを持つことができ、施設等の開放とともに地域と協働でまちづくりを進めていくための施設づくりによる連携を提案します。

○まちと大学のまちづくり交流・協働
施設の開設や施設開放など
○大学や地域の足の確保、コミュニティバスやキャンパスバスの充実

③古いコミュニティが残り、
生活利便性の高い『古新しいまちの実現』

古くからのコミュニティが残ったまま、新しい安全なまちの基盤が整備されました。

まちに必要な施設の誘致とともに、新しい住民が増えていくことで、まちづくりの可能性が広がっています。

さらに、都心への直通運転が可能となった北綾瀬駅とのネットワークの必要性も高まりました。

また、六町地区についても駅前の開発により大学との連携拠点などについても十分な可能性があります。

■大学・地域とのまちづくり連携

近年、大学教育や活動において地域との連携が重要なテーマになっています。

提案のポイントとして…

・花畑キャンパスでは、大学教育と地域の利便性向上を連携で実現
・地域の活性化に向けた大学や大学生との協働の可能性と役割分担

この大学と地域の連携に関する先進事例と地域連携に関する考え方を提案します。

○アーバンデザインセンター柏の葉

東大、千葉大が中心となり、行政や民間企業も参加して地域の課題解決に取り組んでいる事例。駅には大学のサテライト施設が立地し交流や連携を促進している。

○二子玉（ニコタマ）夢キャンパス

東京都市大学の夢キャンパスでは、地域が気軽に利用できる多目的スペースを開設し、イベントを通じて大学生が主となり地域との連携や活性化を実現している。

●大学との地域連携の考え方のまとめ

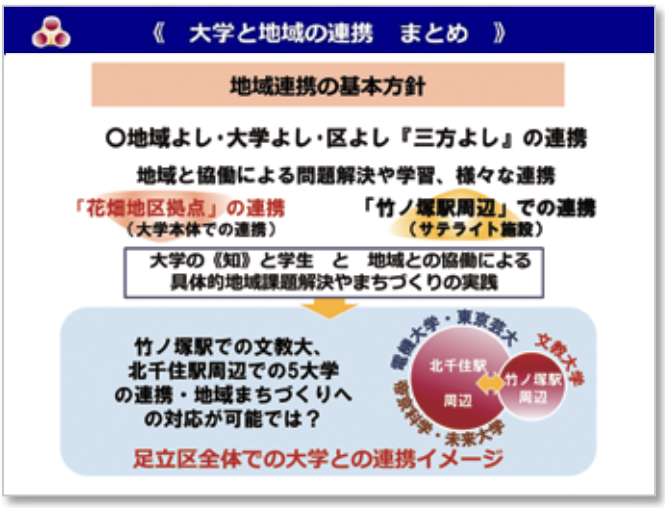
地域連携の考え方では、「三方（さんぽう）よし」の連携でなければ、継続的な取り組みは難しいと考えます。

①まずは、地域が良い
②次は、大学のメリットが生まれる
③さらに足立区にメリットが生まれる仕組みをつくる

このことで様々な可能性が広がり、色々な支援も得られると考えます。

区内には５つの大学もあることから、今後、区内大学のまちづくり地域連携などもできると素晴らしいと思います。

その一端を、竹の塚のサテライトキャンパスで実現できるとよいと考えています。



■高架下の利用によるにぎわいづくりとサテライトキャンパスの計画

竹ノ塚駅では、高架下の利用が可能となることから、まちに必要な機能や活性化のための高架下の活用事例を提案します。

●活性化のための高架下活用事例

① 2540 アキオカ・アルチザン

職人のまちとしてものづくりをテーマに高架下利用を進めている秋葉原と御徒町間の高架下の事例です。あだちブランドや産業活性化にも活用可能です。

②中央ラインモール nonowa

三鷹から立川駅間の約 9km の連続した高架下空間をまちづくりに活用する中央線の高架下の事例です。

③身近な梅島駅の高架下利用

東武鉄道でも保育園やフィットネスクラブへの活用例が他地区でも見られます。

④高架下のサテライトキャンパス活用

地区部会では活用の第一候補として、大学との地域連携のための**サテライトキャンパスの設置**を提案します。

立体化や再開発を利用して施設をつくり、花畑キャンパスとのつながりを強化し、ステアブルなアフ・スクのまちによる活性化を目指すことを提案します。

■トライアングルとその他のネットワークの計画

地区の利便性をより向上させるために３拠点をつなぐための交通や歩行者のネットワークの提案です。

★３拠点連携と核づくり
— トライアングルネットワーク

★東西ぐるりんバス
— 東西交通ネットワーク充実
・分担した役割を享受するための
ネットワークの確率

★緑の骨格プロジェクト　ナナヨンクロス
・環七、国四の街路緑化の充実によるイメージアップ

★回遊性、地域内観光のネットワークを形成する
・春夏秋冬、四季の公園めぐり、歴史、神社の
史跡ネットワーク

★毛長川等河川と特徴ある緑のつながり
・かわの辺の道ぐるっと構想（2015 フォーラム提案）

①交通ネットワークの形成

東西ぐるりんバスなどの**コミュニティバスやキャンパスバス**など、大学と足立区が協働した取り組みが重要です。

このことで大学と地域に相互メリットが生まれます。

②回遊性、地域内観光のネットワークの形成

多くのまちづくり資源を活かし、散策ルートも駅から街中へ、川辺の連続した空間へとつなげ、３拠点の活性化とともに奥行きのあるまちの形成を図ります。

また、毛長川と特徴ある連続した公園や緑を繋ぐ、『**かわの辺の道ぐるっと構想**』なども重要なネットワークの一つとして提案します。

③ナナヨンクロス、緑の骨格づくり

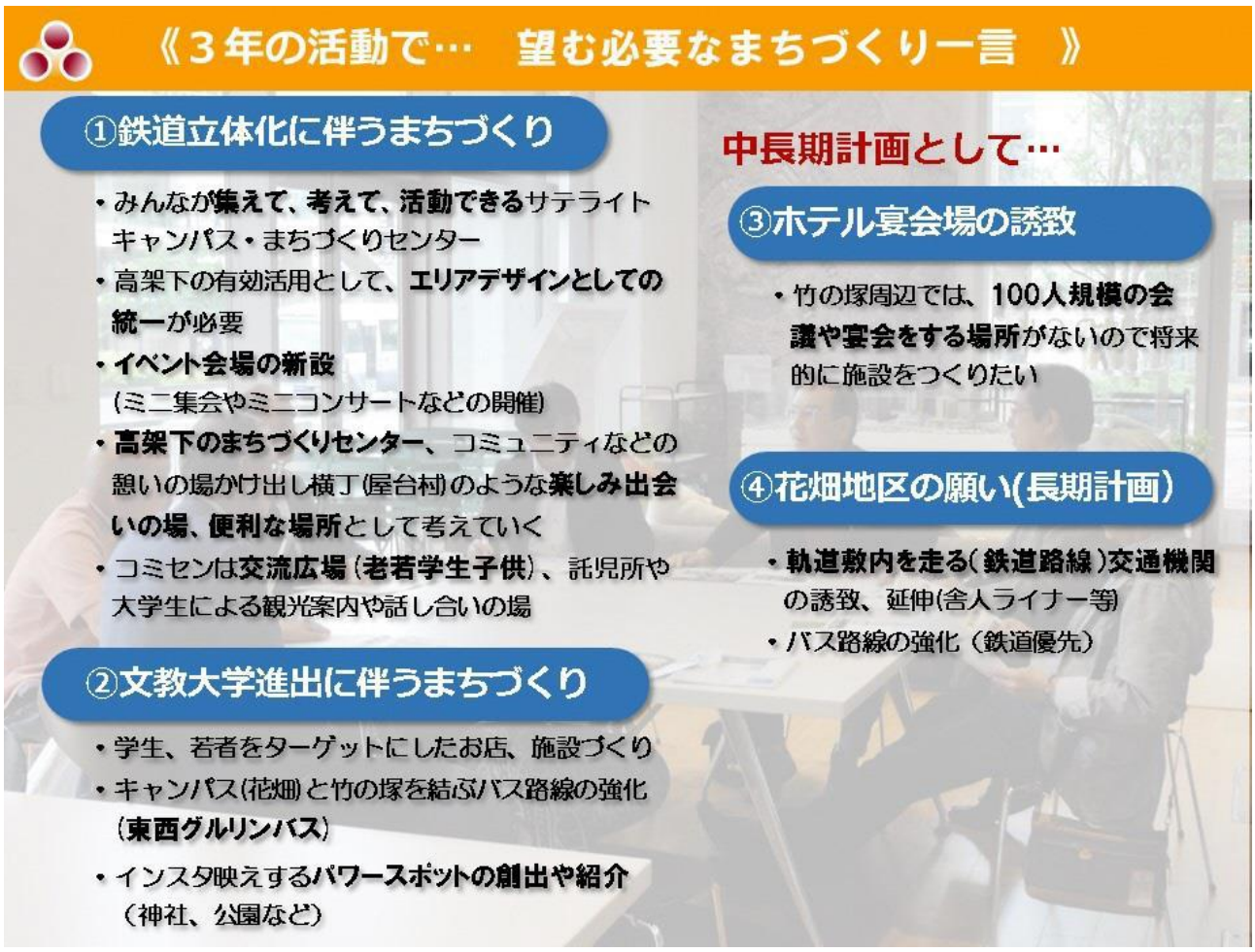
最後に当地区は南側を環状７号線、中央に国道４号が通過しています。

この２つの幹線道路のイメージは、足立区や地区のイメージの骨格を形成することになります。

そこで、この国道と都道の緑化を充実し、緑豊かな地区イメージを形成するためのネットワークとして、『**ナナヨンクロス、緑の骨格づくり**』として提案します。

■最後に、メンバーの思いを一言

最後に、３ヶ年研究してきた中でのメンバーの思いです。
それぞれの地区へのまちづくりの思いは様々です。
夢も含めてまとめました。中には、超長期的な課題もあります。
提案の内容は簡単にできるとは考えていませんが、少しでも前に進んで実現できればと考えています。



以上

TX・竹ノ塚周辺地区部会研究発表について

まちを受け継ぐ主体として学生を育てていく

森下　一成
東京未来大学
モチベーション行動科学部教授

私は、人と人をつなぐことにより地域課題を解決する、コミュニティデザインを専門としています。千住地区以外に大学がやってくることで、皆さんのご期待が非常に高いということが感じられるご発表でした。

文教大学の立地が、「TX・竹の塚周辺地区」から若干、外れているところで、どのように学生を呼び込むかということが大きな課題になると思います。アフ-スク、それからスティアブル、さまざまな構想は良いと思いますが、傾向としてありがちな、まちと大学との連携だけに終わってしまわないようになさってください。もう少しミクロなレベルで、学生をどのように地域に引き込んでいくのか、そして、まちを受け継ぐ主体として、学生をどのようにまちづくりに参加させながら教育していくのかという視点がとても大事になると思います。

大学との連携では、さまざまな事例、特に、東京大学、それから東京都市大学をご視察されていますが、特に東京都市大学の夢キャン、この活動テーマにある、学生が主体となってイベントやまちづくりへ対応、こちらをご参考になさるといいのではないかと思います。

とかく地域連携のなかでは、大学生をボランティアとして当日だけ呼んできて、働いてもらうというようなことがありますが、学生を「地域を受け継ぐ者」として育てるならば、企画の段階から学生を入れていくと、学生自身にまちをハンドリングする感覚が身についていくのではないかと思います。それが、地域を受け継ぐ者として、自分の考え方や意思決定が地域を動かす力になっているということを実感する機会となります。そのような機会をまちが提供することにより、まちが、学生を引き込む大きな力になっていくのではないかと思います。

こうした取り組みを積み重ねていくことにより、学生の地域への定着、地域への学生の呼び込みというものが、増えていくのではないかと思うのです。非常に素晴らしい発表、ありがとうございました。